

# 議会だより

## もろっか

平成30年1月

平成  
30年 第156号

編集 議会広報編集特別委員会  
発行 諸塚村議会

### もくじ

新年のごあいさつ .....	2
平成29年度第4回諸塚村議会定例会 .....	3
一般質問 .....	4~6
所管事務調査報告 .....	7~9
議会活動報告 .....	10

# 平成29年度第4回諸塚村議会定例会 平成29年度一般会計補正予算

補正前:33億2千2百万円      補正額:6千5百万円  
補正後:33億8千7百万円

## ◆一般会計の主な補正事項◆

- 「建設」・林道施設災害復旧事業 .....14,500千円
- 「建設」・耕地災害復旧事業 .....39,000千円
- 「建設」・土木施設災害復旧事業 .....33,250千円

## ◆特別会計の主な補正事項◆

- 「診療所事業」・医業費.....8,710千円



### みんなの議会です。 傍聴しませんか

次の議会(定例会)は3月です。お気軽においで下さい。

新年のあいさつ

## 四年目へ向けて

村民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年を顧みますと、全国各地で自然災害の多発した年となり、本村も久し振りに大型台風襲来により被害はありましたが、甚大な災害はなく改めて防災の大切さを再認識したところでした。一方、世相に目を移しますと、度重なる北朝鮮のミサイル発射や核開発の脅威、この危機に対して我が国では、国の安全上に重要とした憲法改正と子育て世代への投資を拡充するため、消費税の使い道を見直すこと等を大儀とした、突然の衆議院解散総選挙が行われ、結果は自公連政権の継続となりました。現政権には、本村において地方創生実現に不可欠となる、森林環境税の早期導入と国道503号の早期整備促進を、強く期待しております。



議長 若本 幸徳

さて、本村の昨年の出来事については、諸塚保育所の完成による子育て支援の充実、診療所における定着医師として桐村泰廣先生の就任は、村民の健康を守り、住み良い村づくりに大きな力となっております。また、産業面では、本村の柱である四大基幹産業もようやく販売価格等も安定してきているように感じてはいますが、林業をはじめ各分野において少子高齢化や人口減少による担い手不足は、深刻な状況となっております。

議会も常に皆様の声に耳を傾け、議員一丸となり様々な課題克服に向けて四年目の今年、気持ちを新たに行政と共に全力で取り組んでまいりますので、議会に対しまして、昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして、幸多き年でありますようご祈念申し上げます。新年のあいさついたします。



あけまして  
おめでとう  
ございます



# 一般質問

## 今回三名の議員が質問をしました。

### ①公務員を含む村民所得の向上について



西川 健 村長

西川村長 平成29年度村民の総所得金額は約14億7千万円で、前年度より3千9百万円、率にして2・7%増加しております、人口が減少する中で所得の向上が図られております。

黒木議員 諸塚村は転出や自然減少を含めて、一年間に70名の人口減少となっており。本村も雇用対策に努力はされていきますが、村内事業所を含め、村民所得の向上にいま一度取り組み、公務員を含め全ての村民が収入増につながる政策を、具体的にどのように進めていくのかお伺いします。

黒木議員 確かに農林業を中心とした所得の向上は明らかに目に見えていまいかと思っております。しかし、サービス業とか一般の小売業にしてみれば、地元の消費というのがまさしく収入に対しては比例していないのが現状では



西川 健 村長

黒木議員 確かに農林業を中心とした所得の向上は明らかに目に見えていまいかと思っております。しかし、サービス業とか一般の小売業にしてみれば、地元の消費というのがまさしく収入に対しては比例していないのが現状では

### ②保育所改築と保育士の採用について

黒木議員 新設された諸塚保育所はゼロ歳児保育に組み込み、村民からも称賛を得ています。預かる幼児が増えた分、保育士不足も深刻化しております。教育委員会も児童数の減少に伴う学校あり

西川村長 方意見交換会を立ち上げ、少子化対策の取り組みの中で、荒川保育所の改築は行われるのか、来年度の役場職員募集による保育士の採用枠をお伺いします。

西川村長 村民それぞれの分野において、主体的に経営感覚とか、そういうものをますます磨く必要があります。そういう努力をすることを基本として、時代や社会の流れに即応した施策を進めたいと思います。



や今後の位置・配置及び間取りなどについて、検討を行いました。保育環境の整備と合わせて、早急な建て直しが必要と判断しているところ。 荒谷・南川地区においては、出生数は懸念されますが、若い夫婦や今後の婚活に期待するということなどの背景があります。次年度で荒川保育所の改築はやりたいということ。 保育士の採用につきましては、職員1名の定年退職に基づき、1名の補充採用決定となっております。

### ①防犯対策について



中田 政雄 議員

中田議員 諸塚村は全国でも屈指の道路網の整備が進んでいるところであり、進入路、言い換えれば、逃げ道は多いわけですが、主要なところには監視カメラを設置すること、防犯対策になり、村民への安心、安全な環境の提供にもなるのではないかと考えを、お伺いします。

西川村長 村内全体を網羅する取りつけについては、予算上の制約もある

中田議員 村民の安全安心を確保する上でも前向きな検討をよろしくお願いたします。

西川村長 やはり犯罪が起らない環境づくりというものが、これからますます急がなければならぬと考えております。

### ②移住定住対策について

中田議員 地方創生の最たるものは、人口減少にどう歯どめをかけるかであり、その施策としてIターンやUターンをどう呼び込み、受け入れるかで、この自治体も苦慮しているのが実情と認識しております。本村において、その取り組みと今日までの成果について、村長にお伺いをします。

西川村長 平成27年に移住定住相談員を諸塚村観光協会内に配置して

面談やメールでの問い合わせは、平成27年度の46件から、28年度が143件に増えております。 また、問い合わせの

あつた移住候補者が村内の森の古民家などに一定期間試験的に滞在し、農林業を体験するお試し滞在事業を行っております。27年度で延べ6名の27日、28年度は12名、125日の実績が上がっているところ。ただ、移住者受け入れで肝心なのは、地域との連携となります。 諸塚村の特色であります自治公民館組織と協働しながら、関係機関と連携して、定住人口対策に取り組んでまいります。





ます。

**田原議員** 五ヶ瀬町桑野内に学校跡地を利用した、共生型福祉施設通所介護事業所「ぬくもり」というところがあります。学校のあり方検討委員会等で、参考にさせていただきたいと思えます。

**西川村長** 今後の参考にしたいと思えます。

第11回全国和牛能力共進会が、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」をテーマに、9月7日(木)から9月11日(月)まで宮城県仙台市「夢メッセみやぎ」で、39道府県、513頭の出品により開催された。宮崎県も「日本一」三連覇を目指し、5年に一度の全国和牛能力共進会に全力を挙げて取り組んできた。

村議会は、諸塚村の和牛改良の方向性と今後の畜産発展のため、調査を行った。9月10日の午後2時に到着すると、会場では全国の畜産関係者の熱気の

中、第5区の審査が行われている最中であつた。宮崎県からも知事をはじめ大勢の人が応援に駆け付けている中、県代表の南那珂支所が優等主席を獲得した。次の第6区は高等登録群の部で、残念ながら鹿児島県に次いで優等2席となり紹介されて会場を一周する時、生産者の涙にこの大会にかける意気込みを感じる事ができた。成績は、鹿児島県が団体賞、宮崎県と大分県が内閣総理大臣賞を獲得することができた。宮崎県の最高賞、内閣総理大臣賞は第8区の将来の種牛候補牛



から産まれた子牛を肥育し肉質を競う賞である。

今回、3大会連続最高賞(日本一)に輝いたことは、真の意味での口蹄疫からの復興と宮崎牛の真価を全国に広く示すことができた大会であつた。

次回の開催は、5年後に鹿児島県で行われる。諸塚村和牛部会からの挑戦を期待して、報告を終わりとす。



所管事務調査報告  
**産業建設常任委員会**

【総括】  
**「第11回全国和牛能力共進会」**

平成29年9月10日(宮城県仙台市)

③労働力の確保について

**中田議員** 世間では、景気は上向いているというものの地方では、それを肌で感じ切れない中、人口減少とともに労働力の不足がさまざまな業界で問題となつてきています。特に林業においては、その傾向が顕著にあらわれているようです。

林業立村の本村においては、大変厳しい状況にあると受けとめたところでありますが、労働力の確保について、村長のお考えを伺います。

**西川村長** 根本的な解決策の第一は、既に基盤のある農林家自身が、その後継者を呼び戻すことを考えていただくことと私は考えております。

す。村や森林組合、農協などが相互に協力して、必要な支援をしていくことではないかと思えます。

それに加えて、現在取り組んでおりますUターン、Iターン等の意欲のある方の呼び込みを推進しながら、新しく農林業に取り組もうとする方を1人でも多く獲得できるように努めたいという考えです。

地域を支えるのは人です。担い手確保、人材育成は諸塚村の最優先課題の一つとして認識しておりますので、村民一丸となつて取り組みたいと思えます。

**中田議員** まさに地域を支えるのは人であります。



林業大学、また森林環境税など、そういったものの設置も視野に入れているので、余り落ち込むことなく、前向きな気持ちで林業、産業の振興も含め、人材確保に努力願えればという思いであります。

①高齢者に優しい村づくりについて



田原 尚美 議員

**田原議員** 日常生活において数多くの不安を抱えて生活されている、高齢者の声に耳を傾け、不安を排除できるようなきめ細かいサービスの提供が求められています。高年齢者に優しい村づくりのため、今後どのように取り組んでいられるのか、村長のお考えを伺います。

**西川村長** 地域活動や公民館活動を通して、社会生活の基本であります自活・共助・公助の姿勢

で、ともに共存していくことが重要と思えます。基本的な声かけ、相談等、意思の疎通を図りながら今後それぞれの関係部署と関係者において、いま一度確認しながら進めてまいりたいと考えております。

**田原議員** 仕事マッチング事業も進められているようですが、高齢者の日常生活における些細なトラブル解決に取り組んでもらうことはできませんか。

**矢房企画課長** 今回のところ仕事マッチングとしては、農林業を中心として考えていましたが、福祉の場合は、そのあたりは上手く回るのかも含めて、検討したいと思



災害をどう進め、対応して行くか誠に悩ましいところであるが、まずは日頃から警戒を怠らず「自分の身は自分で守る」ことを念頭にしておくことと考える。

末尾に被災された多くのの方々の、1日も早い平穏な日常生活を願って報告とする。

今年訪問した玉東町は、人口5,300人余り、面積が24.4km<sup>2</sup>で、基幹産業はミカン栽培を主とする農業の町で、中心部にJR九州鹿児島本線木葉(このは)駅がある。車で熊本市中心部へ30分、玉名市へは15分で、1時間以内には複数の大型ショッピングセンターもあり、通勤通学の利便性が良い環境にある。この特性を生かし整備した、オレンジタウン分譲事業を行い、定住促進施策で成果を上げた町である。この事業は「人口増加を計らなければ町の発展はない」また、「未来に残せる故郷へ」の強い思いを抱いた町長の考えから計画されたもので

ある。整備概要は、総事業費14億9千万円、内補助金3億7千万円、起債4億4千万円、単費6億8千万円で、全体面積は公共施設部分3.6haを含む7haに118区画、計画人口400人を目標とした、まさに町の運命をかけたとも言えるべき事業である。平成28年度の一般会計収入が3億6千9百万円で、基金は約17億円、役場庁舎建設引当金もこの事業に当てたそうである。現在の庁舎は築70年過ぎた元中学校の木造家屋で職務を行っていた。このように木造校舎を活用して仕事をしたいことに驚きを感じた。

を町のシンボリックな地区とするため、オープン外構や高さ制限の街並みルールの策定や、住宅建設奨励金50万円の助成や町外からの定住者で中学生以下の世帯員がいる場合、1人につき20万円を助成するなど、数々の奨励金制度が設けられ、平成17年から分譲を開始し、その7割を町外者が購入し平成27年12月、10年間で完売に至ったそうである。これからの定住促進施策としては、次の分譲地計画、集合住宅の建築、空き家の活用も視野に入れ、取り組み予定というところである。

本村においても、生活環境は極めて厳しい状況ではあるが、知恵を出し合い、話し合いで理解を深めながら、定住や移住の促進施策によって、人口減少に

ブレーキがかけられ、それが地域の活力に繋がる事となるよう強く期待し、調査の報告とする。

いつ、どこで発生するか予想もつかない災害に対して、防災、減



【総括】  
「定住促進事業調査」  
平成29年10月27日(熊本県玉東町)

【総括】  
「東日本大震災の復興状況調査」  
平成29年9月11日(宮城県南三陸町)

【総括】  
「エリートツリーの苗木圃場等調査」  
平成29年10月27日(熊本県合志市)

近年造林コストの削減が大きな課題となる中、エリートツリーについて、我々は熊本県にある、森林総合研究所林木育種センター九州育種場を視察した。

育種場においては、林木の優良な種苗の確保を目的として九州育種基本区を対象とした、優良品種等の開発や普及、林木遺伝源の収集、保存、評価等を行っている。成長等に優れた優良品種等の開発においては昭和32年から開始された、精鋭樹選抜育種事業において、成長等の優れたスギ、ヒノキなどの精鋭樹が個別に選抜され、それらの遺伝的優位性を検定する「次代検定林」が設定されている。

第2世代精鋭樹の選抜においては、精鋭樹同士の人工交配家系による「検定林の設定選抜木の挿し木によるクローン検定」における評価を経て、さらに成長等の優れた第2世代精鋭樹の選抜を進めている。これがエリートツリーと言われる物で平成28年度末現在、スギ156、ヒノキ98系統がエリートツリーとして指定されている。

スギのエリートツリー植栽試験地の見学においては、3年生から4年生で樹高が4mから6mに生長しており、目を見張るものがあった。育種場で品種開発されたエリートツリーの苗木栽培は、特定母樹として本県の苗



木栽培者にも届いているとのことである。本村においても小規模でも母樹園の開発や試験林の造成をして、研究してみる必要性があると感じた。

また、同育種場においては、第3世代のエリートツリーの研究や、花粉の少ない品種の開発も進められており、今回は有意義な調査であった。

所管事務調査報告  
総務常任委員会

【総括】  
「東日本大震災の復興状況調査」  
平成29年9月11日(宮城県南三陸町)

前日の全国和牛共進会の視察と応援の結果に、宮崎県3連覇の期待をしながら仙台市を早朝に出発し、今世紀最大の悲劇とも言える東日本大震災から6年半(9月11日)を向かえた南三陸町へと向かった。高速道路を使って約1時間30分後、町のポータルセンターに到着し、そこで「ガイドサークル汐風」の1人のガイドから本人の体験談を交えながら、その後の復興状況について、現場を見ながら説明を受けた。我々が今までマスメディアで見聞きした事実とは、まさに現地に行っ

て見なければ信じがたく、地震の脅威と津波による破壊力には、人の力の何をもっても太刀打ちできない唖然たる思いを否応なしに見せつけられ、恐怖さえ感じさせられた。本村も台風での大水害を受けたが、東日本大震災の規模は、その比ではなく復興への道のりは長期化にならざるを得ないであろうし、今後その地に留まって生活する人達の不安をどう払拭できるかは、今後の最も重要な課題と思われる。

いつ、どこで発生するか予想もつかない災害に対して、防災、減

# 議会活動報告

月	日	行事名	場 所
11	7	入郷地区衛生組合議会	美 郷 町
		日向東白杵広域連合議会	日 向 市
	13	県北部広域行政事務組合議会	延 岡 市
		町村議会議長会幹部議員研修会	宮 崎 市
	16	県森林・林業活性化研修会	宮 崎 市
	19	諸塚村民文化祭	村 G ほ か
	19~23	地方自治法70周年記念式典及び町村議長全国大会	東 京 都
	28	県町村議会議長会役員・監事合同会	五ヶ瀬町
30	議会広報研修会	宮 崎 市	
12	1	議会運営委員会	諸塚村役場
		議会全員協議会	諸塚村役場
		東白杵郡町村議会議長会臨時総会	日 向 市
	8	第4回 定例議会	諸塚村役場
	11	県六団体の意見交換会	宮 崎 市
	25	議会運営委員会 第4回 臨時議会	議 場



森林・林業・林産業活性化九州大会



森林・林業・林産業活性化九州大会



町村議会議長全国大会

## 随想

「新年への思い」

中田 政雄

日本の美しさでもある春夏秋冬の四季、その中で春と秋の期間が短く感じる人が多いようですが、私もその一人です。去年を振り返ってみても、急な冷え込みで体調管理に気を使った方が多かったのではないかと思います。その影響か、諸塚の山々の紅葉は何時になく色鮮やかで沿道のモミジもそうでしたが、特にクヌギやナラの木々の色合いがなんとも美しく、本村の誇りであるモザイク林層を一層際立たせていたように思いました。

ところが、役場から見える家代と黒葛原にかけての山の一部に目を疑うかのような新緑の所がありましたので話を聞くと、なんとあのヤマダカレハによる食害で秋が芽吹きになるとか。なんとも凄木木々の生命力にこれまた感銘を受けたいです。

今年も新年を迎えました。歳を取る度、一年が早く過ぎる気がしますが、樹木のエネルギーを少し頂きながら、またこの一年を頑張っているところだと思っています。

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年の暮れに発表された2017年を表す漢字一字は「北」でした。北朝鮮の核実験強行、九州北部豪雨、天候不順による北海道のジャガイモ不足等があげられます。

さて、宮崎県北部に位置する諸塚村においては、人口減少がさらに加速した一年でした。それに伴う労働力不足等の対策が急がれるところです。

今年も広報誌のご愛読よろしくお願いたします。

今年も広報誌のご愛読よろしくお願いたします。

(編集委員)  
田原 尚美 堀 英博  
岩本 國和 山本 利夫

